

平成23年度 第2回小田原市次世代育成支援対策地域協議会会議概要

件名 平成23年度第2回小田原市次世代育成支援対策地域協議会
開会年月日時 平成24年3月12日(月) 午後 1時30分
閉会年月日時 平成24年3月12日(月) 午後 3時30分
開催場所 生涯学習センターけやき4階 第2会議室
出席者の職氏名 平成23年度小田原市次世代育成支援対策地域協議会名簿のとおり
(欠席 七戸秀勇委員、藤尾澄子委員)

次 第

1 挨拶

2 議事

(1) 子育てに対する主な取組について

(イ) 子育て支援拠点管理運営事業について【資料1】

(ロ) 利用者アンケート調査結果について【資料2】

(ハ) 地域子育てひろば事業について【資料3】

(ニ) ファミリー・サポート・センター管理運営事業について【資料4】

(ホ) 乳児家庭全戸訪問事業について【資料5】

(ヘ) 母子自立支援事業について【資料6】

(ト) スクール・コミュニティ事業について【資料7】

(2) 子ども・子育て新システムについて【資料8】

(3) その他

3 事務連絡

審議の内容

1 挨拶

隅田子育て政策課長が挨拶を行った。

2 議事

(1) 子育てに対する主な取組について

(イ) 子育て支援拠点管理運営事業について

服部子育て政策係長が資料1を使い説明。

【質問・意見】

大石委員 業者の選定を行ったという事だが、選定された事業者はどこか。

服部係長 9月までは横浜に本社がある新生会が受託していた。10月からはマロニエが小田原女子短期大学、おだびよがぎんが邑、いずみとこゆるぎが新生会になった。しかし、

平成24年度のいずみ、こゆるぎの受託について、12月に新生会から契約辞退の申出があり、話し合いを行なったが撤退する事になった。そのため、次点事業者であるぎんが邑に来年度からお願いをする事になっている。

(ロ) 利用者アンケート調査結果について

服部子育て政策係長が資料2を使い説明。

【質問・意見】

- 市川委員 こんにちは赤ちゃん事業の訪問員に対する研修は、年間どのくらい行なっているのか。
- 渡邊係長 委嘱をする時に3日間の研修を行なっている。今年度は2年目になるが、毎月連絡会を行っている。訪問の仕方、問題点の検討などをおこなっている。また、県が開催する乳幼児揺さぶられ症候群の研修などにも参加してもらっている。
- 榮副会長 訪問員の人数は何人いるのか。また、その人数で足りているのか。
- 渡邊係長 訪問員は10名で市民を採用している。資格は特別に求めなかったが、結果的に10名のうち7名は保育士や幼稚園教諭などだった。全員が子育て経験者であり、年代は幅広い。人数は足りている。
- 隅田課長 年間約500名程度が対象になる。訪問員は10名いるので、月に4件程度のペースになっている。
- 榮副会長 生後1～2ヶ月のうちに来てもらいたいという意見が出ている事を考えると、対応できているのかとってしまう。
- 隅田課長 制度では4ヶ月までに訪問する事になっているが、出生連絡票に基づいて日程調整を行っており、早ければ1～2ヶ月で訪問できている。
- 渡邊係長 基本的には1ヶ月程度で訪問する事を目安にしている。
- 夏苺委員 いずみは土曜日も開いていて土曜日の希望もあるようだが、他のセンターでは土曜日も開ける事に対する支障があるのか。毎週開けるという事でなくても良いと思う。
- 佐次専門監 いずみは建物が土曜日も開いており、それにあわせて火～土曜日になっている。また、元々支援センターの目的が、日中の育児の孤立を防ぐというものであったため、多くの方の仕事が休みになる土曜日は開けていない。仕事が多様化してきていると思うが、今は平日を中心に開けている。また、いずみの土曜日の利用者数は少なめであるが、父親が来られるというメリットはあると思っている。すぐに開設日を増やすことは予算上の問題もあり難しいが、おだぴよでも特定の土曜日を開けてみようかという話も出ている。ニーズを捉えながら考えていきたい。

(ハ) 地域子育てひろば事業について

佐次子育て政策課専門監が資料3を使い説明。

【質問・意見】

- 榮副会長 地域でという事だが、他の地域からも参加できるのか。
- 佐次専門監 現在行なっているものは、他地区の方が参加することもある。また、運営している方も他地域から来る事を想定しており、制限もしていない。
- 市川委員 スタッフを1名以上配置するとなっているが、スタッフとはどのような方か。

佐次専門監 主任児童委員が多いが福祉ボランティアなども参加している。保護者だけで運営をしているのではなく、そのような方もスタッフとしているという事である。

大石委員 各地域で行なわれているという事だが、具体的にはどのような内容なのか。また、他の地域との連携はあるのか。

佐次専門監 地域によって様々だが、季節の行事を行っているところが多い。行事だけでなく、来た方が話をしやすいようにしていて、主任児童委員も初めて来た方には地域で友達ができるように声かけをしている。ひろばに参加することで、子育てが楽しいと思えるようにしている。地域同士の連携については来年度のテーマになる。今年度交流する機会を作ったが、「参考になった」という意見が多かった。それらの意見を踏まえながら、来年度の実施内容を考えていく。

榮副会長 上府中地区がケアタウンモデル事業となっているがどのような内容なのか。

佐次専門監 ケアタウンは地域の中の支え合いを考え、高齢や障害の分野でも行なっており、上府中地区については子どもを対象に行なっている。上府中地区には子育てひろばがなかったが、モデル事業をきっかけに報酬を出してスタッフを確保して立ち上げた。ケアタウンの考え方と、地域子育てひろばの考え方は近い。上府中地区はケアタウンとなっているが、地域の中の支え合いという意味では他の地区も同様である。予算上でケアタウンとなっていると考えてもらいたい。

宮川委員 年間2万円という予算でどのような事ができると考えているか。

佐次専門監 この予算は、子育てサークル運営費補助金だった経緯がある。当初は会場代、保険代、ある程度の事務用品などを考えていた。この金額では足りない所もあり、地域から援助されている。この金額だけで運営ができるというわけではない。しかし、市の事業と位置づけたことにより、市の保険を適用する事ができるようになった。

隅田課長 いままでも収支報告は行われているが、経費は概ね7～10万円程度であった。保険代で1～2万円負担が少なくなった。また、会場代も公共施設は減免対象とする事ができるようになったので、必要経費は少なくなっている。

宮川会長 情報交換は市が計画するのか。

佐次専門監 そのとおりだ。何回実施できるかわからないが、同じように母親を対象にしている子育て支援センターとも絡ませながら考えていきたい。

小関委員 参加費を集めている所もあるのか。

佐次専門監 地域によって様々だが、おやつ代をもらっていたり、登録料をもらっている所もある。ただ、金額は50円、100円など少ない。

(二) ファミリー・サポート・センター管理運営事業について

服部子育て政策係長が資料4を使い説明。

【質問・意見】

大石委員 会員になるのには会費がかかるのか。また、預かる場所はどこか。

服部係長 会費はない。支援会員の自宅で預かっている。

大石委員 会員のバランスは取れていて、希望通りの活動ができるのか。

隅田課長 支援会員が少ない状況だ。

大石委員 子育てをするには良い制度だと思う。広報などで支援会員を公表しているのか。

隅田課長 支援会員を公表はしていないが、支援会員になるための研修は周知している。

佐次専門監 ファミリー・サポート・センターは事務局が会員同士の結びつきを作っており、事務局がマッチングを行なっている。

夏苺委員 マッチングは年度ごとに行なうのか。活動はマッチングをした方が主に行なうのか。

佐次専門監 常に預ける必要があるのならば保育園を利用する事になる。この事業は、たまに使う事になるが、状況が変わるまではマッチングを行なった支援会員と依頼会員の間で活動が行なわれる事になる。

夏苺委員 急なお迎えでもマッチングができれば活動できるのか。

佐次専門監 マッチングは事前に行なっていて、必要な場合に会員間で依頼をする。

夏苺委員 周知はどのように行なわれているのか。放課後児童クラブに対しても行なっているのか。

佐次専門監 小さい頃から利用している方が中心なので、その時期には広報をしている。

大石委員 何人預かる事ができるという規制はあるのか。

隅田課長 基本的には1対1だ。

大石委員 そうすると、支援する会員はだいぶ足りないという事か。

隅田課長 安心のために登録をしていて、実際は使わない方もいる。また、年齢が大きいのに退会していない方も多いので一概には言えない。

大石委員 市民に対する広報はどのように行なっているのか。

隅田課長 広報誌やホームページなど一般的なものも行なっている。全ての家庭を訪問するこんにちは赤ちゃん事業で紹介したり、子育てのパンフレットに記載したりしている。乳幼児期の家庭に集中して周知しているが、まだ十分ではない。支援会員については、子どもがいない世代なので、周知の工夫をしなくてはいけない。

服部係長 支援センターで行なったアンケート結果も踏まえ対応して行きたい。

(ホ) 乳児家庭全戸訪問事業について

渡邊こども相談係長が資料5を使い説明。

【質問・意見】

宮川会長 気になる家庭や養育支援に繋げた家庭の数はどのくらいか。

渡邊係長 昨年度、養育支援家庭訪問事業は4件実施した。今年度は3件実施している。ただ、これらはこんにちは赤ちゃん事業で把握した家庭ではなかった。訪問できなかった家庭は4ヶ月健診で見ている。

宮川会長 訪問できなかった家庭については、4ヶ月健診に情報が伝わっているのか。

渡邊係長 そのとおりだ。4ヶ月健診で注意深く見てもらっている。

(ヘ) 母子自立支援事業について

遠藤手当・医療係長が資料6を使い説明。

【質問・意見】

なし

(ト) スクール・コミュニティ事業について

和田青少年課主査が資料7を使い説明。

【質問・意見】

榮副会長 3時30分から日没となっているが、冬だと4時ぐらいで終わってしまうのではないのか。

和田主査 そのとおりだ。1時間ほどだが、子ども達は楽しみにしており実施している。

宮川会長 来年度行なう地区はまだ決まっていないのか。

和田主査 地区と話し合いはしているがまだ決まっていない。

宮川会長 市としては、どの地区で実施をしたいという希望はあるのか。

和田主査 どの地区というのはないが、ゆくゆくは小学校単位で実施できたら良いと思っている。川東地区で実施できると地区のバランスとしては良いと思っている。

夏苺委員 この事業は地域で既におこなっている事を市がサポートするという事か。

和田主査 久野地区は既に地域の活動が行なわれていたので、そこと結びついて実施した。下堀地区もスタートしたという情報をもらった。スタッフや資金面で難しい部分を青少年課でサポートした。新たに実施するとなると地区の負担は大きく、既存事業を活用する事が、一番実施に近いと考えている。

夏苺委員 そのような組織がないと難しいということか。

和田主査 そのように考えている。下堀地区のように、地区が立ち上げたが資金面の問題やノウハウがないという問題をサポートする形が一番やりやすい。民児協などから情報提供があると良いと思っている。

(2) 子ども・子育て新システムについて

隅田子育て政策課長が資料8を使い説明。

【質問・意見】

榮副会長 まだ流動的な内容だが、問題は財源だと思う。保育園としては「保育にかける児童」という考えがなくなった時に、どこにもいけない子どもがどうなるのかと思う。

大石委員 この議論は都市部の保育園に入れない場所から始まっている。幼稚園の立場としては、3歳で入園してもなかなか親と離れられない様子も見られるので、経済的な部分を優先させて、0歳から預ける事をした時の成長がどうなるのかと思う。

榮副会長 必要性があるから0歳から預かっている。ただ、垣根をなくした時にどうなるのかと思う。

大石委員 民営化をして、会社組織も参入できるようになると、つぶれてしまった時にどうなるのかと思う。

宮川会長 幼稚園は文部科学省、保育園は厚生労働省だったが、これからは内閣府に職員が配置されるようだ。市役所では子育て政策課と教育委員会の連携はどうなるのか。

隅田課長 今年から子ども青少年部ができ、子どもという括りは作られている。新システムになれば、一つにまとまるのかなと思う。既に保育園は子ども青少年部にあり、幼稚園が

子ども青少年部に入るのがスムーズかなと思う。

宮川会長 公立、私立があり細かい相談が必要だと思うので、よろしくお願ひしたい。

(3) その他

なし

3 事務連絡

服部子育て政策係長から協議会委員の任期について説明。規定では2年間となっているため、平成24年度に改選だが再任を妨げないという規定があるため、基本的には現在の委員を継続する事、団体の代表について変更がある場合は、4月中に後任を推薦するようお願ひした。